

竹の國



竹は、縄文の時代より日本の生活・文化・芸術の広い範囲に使われてきました。同時に「竹取物語」などの物語や神話、門松などの風習に見られるように、神秘・浄化の力を持った植物とされてきました。しかし、この百年足らずの間の工業化や石油製品の普及によって人は竹を使わなくなり、日本中に放棄された竹ヤブが広がっています。

人の手が入らないと竹は過密なヤブになり、弱ってしまいます。人が竹を切ることで美しい竹林が生まれ、維持されるのです。人が利用することで自然が元気になる。それは、人と自然の共生の形です。

自然を破壊したきた私たちは、共生の時代へ入ろうとしています。世界は今、人と自然の新しい関係を模索しています。竹は、日本の伝統素材であるだけでなく、これから私たちが進むべき道を示すものなのかもしれません。

「竹の國」は、放置された竹ヤブを整備し、美しい竹林を作る活動をしています。竹ヤブから美しい竹林を作り維持していくためには、大量の竹を切ります。それをゴミとするのではなく、切った竹が有効に使われるようになって初めて日本中に美しい竹林が生まれると考え、私たちは竹の幅広い利用を研究しています。

日本の原郷とも言える奈良県の明日香村を中心に、竹林整備や竹の基本的な扱い、竹工芸の基礎などの研修やワークショップ、子どもたちが自然と遊べる集いなどを毎週開催しています。

ご興味ある方は、ぜひお越し下さい。

「竹の國」代表：三橋 玄